

自動認識の世界をより身近に **Flags**

vol.147 2017
8月号

『国際モダンホスピタルショー 開催レポート』

今年も医療分野では国内最大級となる「国際モダンホスピタルショー 2017」が先月の12日～14日の3日間、東京ビックサイトで開催されました。出展社数は340社を超え、開催日累計で8万人を超える来場者を記録し、医療分野の改善、進化への関心の高さを伺える展示会となりました。

今号は、当展示会の開催レポートを紹介いたします。

今年のモダンホスピタルショー

今年のモダンホスピタルショーは、「健康・医療・福祉の未来をひらく～連携と地域包括ケアの充実を目指して～」をテーマとし、病院をはじめ、保健・医療・福祉分野における質の向上、充実に役立つ機器、製品、システム、サービスなどが幅広く紹介され、最新情報の発信と展示を通じての情報交流の場を提供し、健康福祉社会の発展に寄与することをアピールしていました。

「地域包括ケア」は、昨年同様注目されておりましたが、今年はIoTなどの追い風が加わり、最新の情報機器を活用した現場改善のシステム提案が多かったように思います。

身近になったロボットの活用

やはりこれからの超高齢化社会では、介護する人間が圧倒的に減少する時代が見込まれるので、介護用ロボットの開発や活用は益々期待が大きくなります。昨年と比較してロボットの展示が単なる客寄せ用の受付業務などから、今年は具体的な現場での活用シーンを想定した出展



が目立ちました。

当社ブースの目の前でも人型ロボットのPepper君が休まなく踊っており、説明を聞くと介護福祉施設へのプレゼンの一つでありました。この、Pepper君の踊りは高齢者向けの体操で、顔認証して一人一人の要介護度に合わせた体操を一緒に行うことができるそうです。

また、Pepper君との会話や胸についたタブレットで脳トレーニングや、訪問頻度などを判断して楽しみながらリハビリを継続できる工夫などもされているとの事でした。

近い将来、このような対話型ロボットが、一人暮らしの高齢者の自宅などにも置かれ、日常生活のサポートはもちろんのこと、日々の健康管理や突発的な病気の早期通報などで利用されることが現実味を帯びてきたと感じました。

加速するIoTの活用

IoTとは非常に大きな定義で表すと「モノとインターネットつなぐ技術」のことであり、産業、業界を問わずあらゆるモノを情報化してインターネットでつなげようという仕組みです。

人や医療を“モノ”に例えるのは不謹慎かもしれませんが、医療、介護もインタ



MTSソリューションパッケージ

健診施設様向け
検査待ち状況表示システム
エスコートナビ こまち

健診施設内の全ての検査場所の待ち状況が一目瞭然!

事務所パソコンや現場スタッフの手元にあるタブレットで一目で確認できる「こまち」をリリースしました。

待ち状況を「みえる化」するとスムーズな誘導が可能となります。

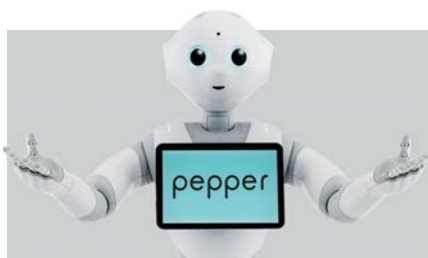
なんとと言っても、現状のオペレーションを変更することなく、受診票フォルダーにICラベルを貼るだけで、現状の運用にそのまま導入できる魅力的なパッケージです。

詳細は、当社営業担当まで、お問合せください。

ーネットを活用してあらゆる状況を効果的に管理する時代に進んでいる事を感じられる展示会でした。

前述のロボットもそうですが、現場から簡単にインターネット接続できるタブレットやAndroid端末などのソリューションに主役が切替って来ていました。

製造業界や物流業界ではヘビーユースな環境からまだまだ専用機の需要は根強いのですが、データ通信契約も300円/月以下で利用出来たりと驚くほど安いサービスの出現により、ますますIoTの波は広がっていくようです。



IoTと自動認識技術の有効性

IoTの実現には、自動認識技術が非常に重要な「キーテクノロジー」となります。

一つ一つのモノや事象を管理するには、必ずそのモノ自体を認識しなければ何も始まらないからです。如何に効率的かつ間違いなく、そして、いち早く「モノ」を認識するために生まれたのが自動認識技術です。

今年の展示会でも顔認証、静脈認証、RFID、2次元コードなどの活用した展示物が数多く出展されていました。当社は、IoTの普及と共に生まれてくる様々な自動認識技術の要請に、いち早く応えられる様、近未来のより良い世界に向けて、最適なソリューションで貢献出来ることをお約束いたします。

MTSのヘルスケアソリューション

今年のMTSブースでは新製品を数多く出展させて頂きましたこともあり、おかげさまで展示会場全体の来場者数が横ばいの中でも、当社のブースでは例年を大きく超えるご来場者様をお迎えすることができました。

当社のメインとなる健診施設様向けの健診データ収集システム「新型健診ステーション」は、参考出品でありながらも、従来の専用端末だけではなく、市販のタブレットPCへも対応であることを発表し、また、データ化しづらかった問診内容などもタブレットで簡単に入力することができ、健診データとリアルタイムに紐付けが出来る「タブレット問診」は多くの健診施設様にご好評を頂くことができ、正式リリースに沢山の期待が寄せられていました。

また、今年から個人情報保護の管理レベルが引き上げられ、「健診結果の誤配送や誤封入の撲滅やエビデンスを確保する。」といったニーズで2次元コードによる照合システムの引き合いが多く寄せられるようになりました。このようなニーズに対して当社では、購入してすぐ使える照合アプリ付きのポケットスキャナ「MID-100」を発表したところ、圧倒的なコストパフォーマンスからも大変ご好評を頂く事ができました。

その他にもA4用紙の手書き資料を高速でデータ化する「OCRシステム」なども、その認識速度と認識率の高さに驚きの声をいただきました。

お暑い中、当社ブースにお立ち寄りいただきました皆様には、失礼ながら紙面にて、御礼申し上げます。

RFID、2次元コードなど活用事例やデータ照合、管理業務の向上に関する最新情報など、自動認識技術にご興味がございましたら当社営業担当までお気軽にお問合せください。

【健診施設様向けソリューション一覧】

こんなお悩みはありませんか？

- 計測データ入力や転記作業を省力化したい → **健診データ自動化システム 健診ステーション**
- 巡回健診でもデータを自動化したい → **巡回健診用データ自動化システム 健診ステーション ポータブル**
- 画像ファイルとも属性連携したい → **DICOM対応 健診データ自動化システム エックス 健診ステーションX**
- 他の検査場所の混雑状況を知りたい → **健診施設向け 検査待ち状況表示システム エスコートナビ Escort Navi こまち**
- 問診を簡単にデジタル化したい → **健診施設向け タブレット問診**



手のひらサイズの照合アプリ付きポケットターミナル MID-100

次号予告

2017年 9月号は・・・

『第19回自動認識総合展
おすすめ製品』
についてです。

Flags 9月号は 9月8日発行です。

都合により内容が変更になる場合がありますので、予めご了承下さい。
バックナンバーは弊社ホームページに掲載しております。

Flags / フラッグス

2017年8月号 Vol.147 2017年8月7日発行

編集・発行 株式会社マーストーカーソリューション

編集事務局:03(3352)8545

AUTOID & COMMUNICATION EXPO 自動認識総合展

2017.9.13(木) - 15(土) 東京ビッグサイト
10:00 - 17:00

今年も9月13日から3日間の予定で開催される自動認識総合展に出展いたします。お客様のニーズにお応えできるよう、数々のソリューションを展示する予定です。
無料入場券をご用意しておりますので、詳しくは当社営業担当までお問合せください。

本誌に掲載の記事・写真・図版などは著作権法によって保護されており、無断で転用・転載・複製することはできません。

本 社	東京都新宿区新宿1-8-5	新宿御苑室町ビル
	Tel: 03 (3352) 8522	Fax: 03 (3352) 8579
日立営業所	Tel: 029 (276) 9555	Fax: 029 (276) 9556
名古屋営業所	Tel: 052 (218) 7661	Fax: 052 (218) 2607
大阪営業所	Tel: 06 (6353) 5476	Fax: 06 (6353) 6125
福岡営業所	Tel: 092 (441) 3638	Fax: 092 (441) 3639
X線営業部	Tel: 042 (484) 6155	Fax: 042 (489) 9241